

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463284

研究課題名(和文) 医療現場の暴力防止に寄与する怒り感情マネジメント教育プログラムの構築

研究課題名(英文) Educational program of anger management to prevent violence toward medical professionals

研究代表者

田辺 有理子 (TANABE, Yuriko)

横浜市立大学・医学部・講師

研究者番号：20448616

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、医療者の感情に着目して怒り感情マネジメント教育のプログラムを構築することを目的とした。

医療者の感情マネジメントについて看護管理者に情報提供し、教育プログラムのニーズに応じて職位職域別の集合研修を実施した。教育プログラムは、不安や怒りへの対処に有効なアンガーマネジメントの技法を用い、講義とグループによる事例検討、身近な体験を題材とした演習を組み合わせ構成した。医療安全に関する内容のほか、ストレスマネジメント、離職予防や職場内のコミュニケーションなどへのニーズが高く、医療のみでなく介護現場の虐待防止等の教育ニーズが高かったことから、介護職向けの教育テキストを作成した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop an educational program of anger management focusing on emotions of medical professionals. We provided information to nursing administrators about emotion management of medical professionals, and conducted collective training corresponding to each division and position on their request. The educational program consists of lectures, group case studies, and exercises based on common experiences. The technique of anger management dealing with anxiety and anger was used. There were various topics including medical safety, stress management, prevention of departure from work, communication in the workplace and prevention of abuse of nursing care sites. In accordance with educational needs educational texts for nursing care workers were published.

研究分野：地域・老年看護学

キーワード：看護管理学 暴力 感情マネジメント

1. 研究開始当初の背景

医療現場で発生する患者から医療者へ向けた暴言や暴力によって、医療者に自尊心の低下を引き起こし、患者へのケアの提供を阻害することが明らかになっている。また、医療者同士でも意図せず相手を傷つける場合があり、これは深刻な問題である。したがって、暴力の問題へ医療者が適切に対応できるよう組織的かつ包括的な取り組みが求められる。

国際看護師協会(ICN, 2007)は、医療現場で発生する暴力は看護師の個人の尊厳と自尊心を低下させ、質の高いケアの提供を妨げることを指摘している。日本看護協会の指針においても、包括的かつ組織的な暴力の予防、対応、再発防止が求められている(2006)。医療現場で発生する暴力・暴言への対策は喫緊である。

暴力発生の報告は、看護師の負傷や器物破損などの場合に限定され、言葉の暴力については、ほとんど報告されていない。暴力を受けた看護師は、患者への対応の自信のなさや自責感から報告を躊躇する傾向がある。また、暴力事例を報告しても、対策が講じられないばかりか、上司からの助言指導の場面に限らず、同僚や他の医療職種、事務職などから対応の未熟さを指摘されるなど、さらに精神的な傷を負う二次的被害の問題が生じていた。患者からの暴力だけでなく職員の言動が意図せず暴力となる危険性が明らかになった(田辺,2013)(田辺,2009)。

医療安全において、暴力を患者側の問題として捉えるだけでなく、医療者自身の感情への影響を考える必要がある。医療者が不安や苛立ちの感情を適切にマネジメントできないまま患者にかかわると、患者の暴力を誘発する危険性がある。また、暴力を受けた医療者は、その患者への敵意やケアに対する不安が生じて、その感情をあえて意識しないようにする傾向もある。暴力を受けた医療者を支援する上司や同僚については、気持ちの余裕がない状態では適切な対応ができず、無意識に当事者の対応を非難してしまうなど、助言や指導がさらに当事者を傷つける二次被害を引き起こし、信頼を損なってしまうことも危惧される。これは、医療者間の暴力、すなわちハラスメントにも通じる重要な課題である。したがって、患者へ安全なケアを提

供するためには、医療者が感情のマネジメントを習得し、円滑な職場の人間関係を醸成する必要がある。

そこで研究者は、暴力を受けた医療者および支援者の感情の安定と、さらなる被害を防ぐため、医療者自身の感情への対処としてアンガーマネジメントに着目した。これは、怒りや不安の感情を管理する技法として1970年代に米国を中心に開発された。医療現場の暴力の予防、発生時の適切な対応、再発防止を推進するためには、これまで研究されてきた暴力のリスクアセスメントや身体的暴力への介入プログラムに加えて、医療者自身の感情のバランスを整えコミュニケーションを円滑にする技術を習得することが重要かつ喫緊であると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、医療者の感情に着目して、暴力によって引き起こされる医療者の感情を表現した事例教材を作成し、不安や怒りへの対処に有効なアンガーマネジメントの技法を用いて、教育プログラムを開発実施し、その有用性を検証することを目的とした。すなわち、医療者自身の感情マネジメントの獲得によって、円滑な対人援助に基づいた安全な医療の推進を目指すものである。

3. 研究の方法

本研究では、医療現場で発生する医療者への暴言や暴力によって引き起こされる医療者の不安や怒りの感情に自身が適切に対処する技法を獲得するため、アンガーマネジメントの技法を医療安全の分野に応用した教育プログラムを開発実施した。

先行研究および事前に実施された研修等によって収集した事例から、暴力による看護師の感情に影響する場面を精査・加工し、研修用教材事例を作成した。

看護師を対象とする研修会において、全職位あるいは新人看護師、中堅看護師、管理者など対象別に教育プログラムを実施した。さらに、医療専門職、事務職、介護職など職種を広げて研修を実施して評価を繰り返しながら教材を修正し、教育効果の高い教材事例を選定して、研修教材およびテキストを作成した。

4. 研究成果

研究初年度の2014年度は、患者からの暴力による看護師の感情に影響する場面を精査・加工し、研修用教材事例を検討した。暴力による感情面の影響について、2009年度から実施してきた聞き取り調査において蓄積された事例を加工し、感情面の安定に必要な知識の習得のための教材事例を検討した。患者から暴言や暴力を受けた際の同僚や上司への報告、同僚や上司からの支援などの事例を加工し、具体的にイメージを描き、感情面の安定に必要な知識の習得のための教材事例を検討した。

次に、医療者の感情面の影響に着目した事例を教材として、怒りや不安の感情が生じるメカニズム、自身の感情へ適切に対処するアンガーマネジメント技法について、講義と、グループによる事例検討、身近な体験を題材とした演習を組み合わせ教育プログラムを検討した。

病院の院内研修などに関する教育プログラムのニーズを探りながら、医療現場における医療者の感情マネジメントの必要性について啓発するため、看護系の学会等において主に看護管理者向けに情報提供をおこなった。あわせて、教育プログラムのニーズに関する情報収集を行った。

感情マネジメントの教育については、研究開始時において、現任教育の一環として取り入れる必要性を認識している病院は増えつつある状況であった。しかし、医療安全に関するニーズよりも、医療者のストレスマネジメント、離職予防や職場内のコミュニケーションの円滑化などへのニーズが高い状況があった。情報収集を継続していくと、医療事故や介護福祉施設における虐待事例などが社会的に取り上げられる情勢に伴い、医療安全に関するニーズもみえてきた。

院内研修の企画や精神科看護協会、各都道府県看護協会等の団体からの依頼を受け、対象者や企画者のニーズに応じて精神科領域の看護師を対象とした研修会、総合病院のリーダー層や管理職向けの研修等を開催した。3年目の2016年度は、看護職および介護職、また看護のなかでも総合病院および精神科のみのグループ、また職位においては初級リーダークラスや主任レベルなど段階ごと独自のニーズに応じた研修依頼があり、引き続

き職種別・職位別の教育プログラムを実施した。特に介護職の研修ニーズが高く、2016年には介護職向けの教育テキストを作成、出版した。

本研究は4年間の計画であり、研修の効果測定のためデータを集積しながら、現任教育における感情のマネジメント技術の定着を評価することを予定していたが、教育プログラムを提供するなかで、医療職から介護職を対象とした教育ニーズが増え、対象規模の拡大が見込まれたことから、2017年度から「医療介護職の怒り感情マネジメント教育プログラムの構築（基盤研究（C））」へ移行して、教育プログラムの効果測定を行うこととした。

文献

ICN-International Council of Nurses (2007) Guidelines on coping with violence in the workplace, 2007. 国際看護師協会, 職場における暴力対策ガイドライン.

社団法人日本看護協会(2006). 保健福祉医療施設における暴力対策指針看護者のために. 田辺有理子(2013). 暴力を受けた看護師を支援するために必要なこと, 看護展望, 38(9), 30-3.

田辺有理子(2009). 看護師が患者から受ける暴力を把握するための報告に関する精神科看護管理者の認識, 日本精神科看護学会誌, 52(2), 197-201.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

田辺有理子, 松下年子: 医療現場で発生する暴力としてのセクシャルハラスメントに関する文献検討, 性とこころ, 査読有, 8(2), 2016

田辺有理子: アンガーマネジメント イライラ感情をマネジメントしてイキイキ職場をつくる, 主任看護師 管理・教育・業務, 査読無, 25(6), 64-68, 2016.

田辺有理子: 体調管理のための感情管理, おはよう 21, 査読無, 27(9), 46-47, 2016.

田辺有理子: 外来看護の場面に学ぶ「怒りのマネジメント 他人の「怒り」から自分の心身を守る, 継続看護時代の外来看護, 査読無, 20(4), 91-95, 2015.

田辺有理子: 自分の感情と上手に向き合

おう アンガーマネジメントのすすめ「怒り」の感情を知ろう, おはよう 21, 査読無, 26(2), 64-65, 2015.

田辺有理子: 介護職のストレスと「怒り」, おはよう 21, 査読無, 26(3), 62-63, 2015

田辺有理子: ものごとの許容範囲を明確にする, おはよう 21, 査読無, 26(11), 36-37, 2015.

田辺有理子: 患者の「怒り」を理解できるか, 看護主任業務, 査読無, 23(4), 118-122, 2014.

田辺有理子: アンガーマネジメントを看護管理に生かしてみよう総論・基礎技術編「怒り」の性質とタイプ, 看護展望, 査読無, 39(4), 387-382, 2014.

田辺有理子: アンガーマネジメントを看護管理に生かしてみよう実践編怒らない技術と怒る技術, 看護展望, 査読無, 39(5), 468-473, 2014.

[学会発表](計7件)

Yuriko Tanabe, Toshiko Matsushita, Asako Kawaguchi, Michi Harada, Noriko Katayama, Leena Shiotsuki: Abuse occurring during meal assistance in severely multiple-handicapped facilities in Japan, American Psychiatric Nurses Association 30th Annual conference program book, 査読有, 140, 2016.

Toshiko Matsushita, Yuriko Tanabe, Asako Kawaguchi, Michi Harada, Noriko Katayama, Leena Shiotsuki: Factors of abuse of persons with disabilities by staff - Interviews with staff working in related care facilities, The 19th East Asia Forum of Nursing Scholars, 2-2, 査読有, 2016.

田辺有理子, 松下年子, 河口朝子, 原田美智, 片山典子, 塩月玲奈: 障害者虐待に対する施設従事者の認識, 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 査読有, 355, 2015.

Yuriko TANABE: Recognition of Verbal Abuse toward Nurses by Patients in Psychiatric Wards in Japan, The 18th East Asia Forum of Nursing Scholars, 査読有, 2015.

田辺有理子, 白井ひろ子: 看護師の教育・指導に活かす看護管理者の感情マネジメント, 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 査読有, 156, 2015.

松下年子, 田辺有理子, 河口朝子, 原田美智, 片山典子, 塩月玲奈: 重症心身障害児者施設の食事介助場面における障害者虐待のリスクと職員の認識, 第12回日本高齢者虐待防止学会京都大会抄録集, 12, 67, 2015

田辺有理子: 病棟看護師長が患者から受けた暴力の体験, 日本看護研究学会第40回学術集会講演集, 査読有, 266, 2014.

[図書](計1件)

田辺有理子: 中央法規出版, イライラとうまく付き合う介護職になる! アンガーマネジメントのすすめ, 2016, 160.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田辺 有理子 (TANABE, Yuriko)
横浜市立大学・医学部・講師
研究者番号: 20448616